

江戸時代に紀州藩随一の歓楽

街として名をはせ、昭和の

ころまで和歌山の商業と

文化のシンボルとして

栄えた「ぶらくり丁」。

10月12日、その北側

に位置する「北ぶら

くり丁商店街」で

「北ぶらリミックス

プロジェクト」オー

プニングイベントが開

かれた。このイベントは、

MUJI HOUSEと和歌山市、

北ぶらくり丁商店街振興組合協

力のもと、UR都市機構が主催した

もの。MUJI HOUSEが開発中の、

既存のライフラインに依存しないト

レーラーハウス「インフラゼロハウ

ス」を商店街の一角に設置。全国で

初めてまちなかで活用するURとの

共同実証実験お披露目の場として開

催された。

オープニングセレモニーでは、

UR西日本支社長の高原功が「イン

フラゼロハウスを活用して防災・減

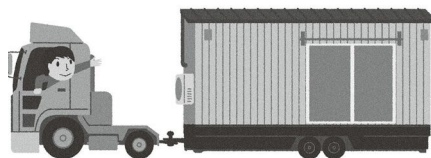
災に係る啓発活動や、地域コミュニ

ティと連携したイベントなどを行

古きよきものを生かし 伝統ある商店街に にぎわいを取り戻す

北ぶらリミックスプロジェクト

2021年●令和3年～



阿部民子 text by Tamiko Abe

Illustration by Shigeyuki Sakata

い、様々な社会課題解決のための新たなモデルの構築を目指したい」とあいさつ。和歌山市副市長の犬塚康司氏やMUJI HOUSE取締役の川内浩司氏らも登壇。締め括りには地元恒例の餅まきも行われ、大いににぎわった。

○ポジティブなまちにイメチェン

舞台となった北ぶらくり丁商店街は、昭和の建物を残したレトロポップな雰囲気、近年若い人を中心にした話題の商店街だ。しかし、ここに至るまでは、地元の地道な努力があった。

「この界限には、かつて2つのデパ

ートやいくつものショッピングビル、6つの映画館などもあり、大阪からも買い物客がくるほどのにぎわいでした。それがバブル崩壊から郊外の大形店舗の進出、インターネットの普及などで多くの店が閉店。人通りもまばらになってしまいました。伝統ある商店街をもう一度盛り上げられないか。そこで、お声かけしたのがサスカッチの小川貴央さんでした」と話すのは、北ぶらくり丁商店街振興組合副理事長の平松博さんだ。

和歌山市指定の都市再生推進法人としてまちづくりやイベントを手がけていた小川さんは、「当時の北ぶらくり丁商店街は、シャッターが下りて暗く、ネガティブなイメージでした。そこで、月1回『北ぶらリメーンバーマーケット』というマルシェのほか、サーカスや映画祭などのイベントも開催。ポジティブイメージに変えようと地道なブランディングを続けてきました」と話す。

数々の努力の結果、この4年間で18もの新店舗が開店。フランス映画などを上映するニッチな映画館や隠れ家的なバー、オーストラリア人が

経営するおしゃれカフェなどもオープン。昭和レトロな看板や建物も、今のレトロブームと合致。若者や外国人が増えるなど、認知度も人気も高まっている。

○人が集い歩いて楽しい商店街に

北ぶらくり丁商店街の活動を見守り、バックアップを続けているのが、



「北ぶらくり丁」商店街と、その一角に設けられた「インフラゼロハウス」。

和歌山市とURだ。URは2015年に和歌山市からの要請を受けて、都市再生に資するまちづくり支援を開始。21年には、新しいまちづくりを協働で推進すべく連携協定を締結。市と手を取り合って、にぎわいの創出やウォーカブルなまちづくりの推進を進めてきた。今回のインフラゼロハウスの取り組みも、その一環だ。

「インフラゼロハウスはバイオトイレや太陽光発電、蓄電池などを搭載。電気や下水道のない場所で暮らしが営め、トラクターなどで牽引して移動ができるトレーラーハウスです。今回は、12月28日までの約3か月間、北ぶらくり丁商店街の一角にリビング棟とユーティリティ棟を置いて、災害対応や環境配慮機能を検証します。期間中は、

まちづくり活動に意欲のある人のポップアップショップやワークショップなど、様々な企画を行います」とURの山口舜は説明する。「URさんには、行政

では難しく、民間だけでもできない部分を担っていただき、他都市での事例やノウハウなども教えていただいています。今回は団地とのつながりからMUJI HOUSEさんのインフラゼロハウスを設置していただき、新たな人やことを呼び寄せてくれるのではとワクワクしています」と和歌山市都市再生課まちなか再生班班長の西本千智さんは声を弾ませる。

今後は、懸案だったアーケードの撤去も決まり、今年度から市による側溝や市道の設計もスタート。ウォーカブルなまちづくりを掲げる市の方針に沿い、2年後には緑豊かで、歩いて楽しい商店街に生まれ変わる予定だという。

「レトロ感を残しつつ、多くの方が訪れる空間になれるようにお手伝いできたら」とURの濱口奈那も抱負を語る。かつての輝きとにぎわいを取り戻すために、北ぶらくり丁商店街の挑戦はこれからも続く。

—— 社会課題を、超えていく。 ——

 UR都市機構

〔企画制作〕新潮社